

迎古夢旅 4565 : **ポルトガル上陸・初日の印象** P104



ポルトガル・リスボン。旅日記には、風化しないように、画像記録と私の印象として、下記のメモを箇条書きに記録していた。

- 時差の関係か、夜中に目が覚める。ポルトガルに来ているのだと再確認し、再び寝る。
- 7時頃起床。**外は快晴**。早い時間帯の空の色は美しく、写真にぴったり。
- 気は急いだものの、朝食をしっかりと、**リズムを整えるのが最良と判断**、実践する。
- 朝食は大満足である。到着後と出発前は、4星クラスに宿泊。贅沢な朝食。
- ヨーロッパ人が、ポルトガルに来る理由の一つに、食事の内容があるように思う。

- 私は話を聞いていた。「**パステイス・デ・ナタ**」デザートを、一番に口にした。甘いもの好きの私には最高だった。
- 日本の食生活、機内食から比べると、朝食は豪華で、二人分頂戴。グーでした。
- **カメラを2台**持って、街に飛び出した。リスボン市内を、**足で散策**を開始。
- **坂と石畳**。覚悟はしていたものの、長時間、荷物と一緒にでは、厳しかった。
- 最初、リベルターデ大通りを、レスタウラドル広場（港方向）へ、**リスボンの顔**である**ケーブルカー**を利用する（**グロリアのケーブルカー**）

- 道に迷いながらも、バイシャ地区の病院まで。**急坂には再度ビックリ**しながら取材散策。
- レンタカー活用と思ったものの、ラッシュと駐車難しさ。楽な旅はしないとの思い、警官も多く、市内は大変難しいと思った。ふと、警官が多いのは、**治安**の問題ではないか
- 左ハンドル、右側通行。急坂、無余地駐車。ポルトガル人は、運転技術の天才ではないか
- 街の雰囲気、建築物、色合い、生活状況、歩いて観て、年配者には大変だと思った。
- バイシャ地区、アルファマ地区、バイロアルト地区、テージョ川を中心に、3地区が、ポルトガル・リスボンの中心のようだ。

- **サンジョルジュ城**を探訪、頂上からテージョ川、4月25日の橋（Ponte 25 de Abril）を。
- アルファマ地区を散策しながら**下山**、テージョ川へ。目に新しく、楽しい時間だった。
- **ポルトガルの夜明けは、午前5時。日没が午後10時頃**。生活リズムが大変。寒暖も急激
- 午後3時~5時、**テージョ川のクルーズ**のチャンスを持った。**川から見るリスボンの街**、見ていて楽しいし、なかなか個性的な印象を持った。

- 4月25日橋の下を通り、ベレム地区を見ながら、テージョ川の河口近くまで、周遊、航行。**約2時間**だった。
- 下船後、アウグスタの**中心街を散策**し、ロッシオまで、道草を繰り返しながら、さらにアモレイラス、ショッピングセンターまで足をのばす。**裏町**も、気をつけながら・・・
- **坂が多く、足は疲れるだけでなく、痛い。腰にまで影響**が出てきたので、帰路は、バスを利用。**大阪～フランス～ポルトガル・リスボンの長旅。疲れて当たり前。**

- レストランで、大好きなスープ（Sopa）を注文。海老のスープで、大満足。
- メインは、説明の言葉がわからず、おまかせ状態で注文すると、チキンとマッシュルーム、半分ボトルの白ワインと一緒に楽しむ、ひと時だった。
- 時差などあるのに、**動きすぎて、オーバーワーク**。4～5本撮影したものの、どうなのか。フィルム撮影だったので、帰国後が楽しみでもあり、心配でもある。

- 案内もなく、ひとり旅。直感で散策した割には、ポイントは訪ねたようである。**無事、無難の1日であったように思う（感謝）** 簡単なポルトガル、日常語も勉強。
- 今一つ、印象が強かったのは、対岸にあった造船所。リスボンの大きな産業で、規模も、かなり大きい。ポルトガルは、農業国との印象があったので・・・

- 翌日は、天気が悪く、暗くて雨は降っていないが、気が乗らない。
- 現在、午前8時、朝食をゆっくり楽しんで、今日の計画を立てようと思っている。
- 朝食は、今日も最高。果物は、アンズ、スモモ、キウイ、イチジク、オレンジ、ヨーグルト、焼きトマト、ハム5種類。私には豪華すぎる。
- 食堂はトロピカルの雰囲気。客質も良く、**日本人は私一人**。週末だけに人は多かった。
- こんな状態は、長く続かないのは、百も承知。郷に入れば郷に従う。

- 午前9時15分、外は雨。厳しくない雨で、撮影には、モノクロも含め、面白いかも。
- 欲張っても仕方ないので、気楽な気分で、カメラも広角とレギュラーを持参、軽くする。
- リスボン空港でレンタカーの交渉。車、ガソリンとも高く、出発前の予想と全く異なる。
- 宿泊事情も厳しく、需給関係から、日本人にとって魅力的でなく、難しいのではないかと。
- ホテルのフロントマンと相性があった。PCをプレゼント。写真集も見せて欲しい。仲良くなり、アドバイスももらった。**都会と地方の違いや格差を頭に入れる必要あり。**

- 今日は午前中が雨で、しかし撮影。モノクロ写真の出来上がりが楽しみである。
- 諸物価が高い割に、貧しそうに見える。生活格差があるような印象を受けた。**治安**も？
- 総合点として、ポルトガルの第一印象は、今一つ、魅力的ではない。
- 今回の旅は、金銭面でも、厳しいことになりそう。それだけの写真が撮れればと願う。
- なんでも見てやろう。なんでも体験。アントニオ・カナレスのフラメンコは最高。プロ中のプロ。感動、感動、感心した。
- 21時30分の開演。24時（午前0時）まで、最高の時間を持った。ラッキー。

**いいことは長く続かない。明日からは、気持ちの切り替えを、きっちり。
 駐車も大変、慣れるまで、田舎まわりがいいのかもしれない。リスボン出発、北か南か、
 結果、南下を選択。セトツバル、大西洋を見て、地中海方面へ。**

それにしても、**急坂と石畳には、鍛えられた**。私は旅人。**生活者は大変**。

時差ぼけも、なんとか、正常に戻ったようである。

貧乏性なのか、動いている方が、今は楽しい。人生で、人間関係が一番難しいと思っている。

人間嫌いではない。和して同ぜず。頑固が、短所であり、長所かもしれない。

自分を信じて、一人よがりゆえに、こんな旅のスタイルが、できるのかもしれない。

何しろ長期のひとり旅。上陸第一歩の現場の状況把握は不可欠。久楽流トラベルトレーニング

